

3. トピック② サークル活動

現在のサークル活動については、公認サークル、非公認サークル、他大学サークル別にたずねています。その結果、全体の参加率（4年引退含む）は、「公認」62%、「非公認」22%、「他大学」4%と、圧倒的に公認サークルが高くなっています（図省略）。公認サークルについてみると、図13のように、文系・理系とも、低学年ほど「参加している」比率が高く、高学年になると「以前参加していたが今は参加していない」比率が高い傾向があります。学生の4分の3は、一度は公認サークルに参加した経験があるようです。

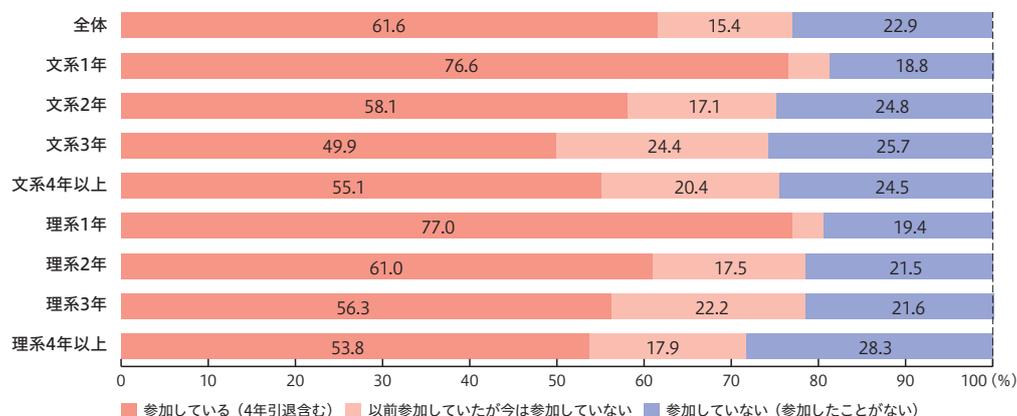


図13 文理・学年別にみた公認サークル参加の状況

現在参加しているサークル数は、図14のように、全体の4割は「1サークル」のみです。しかし、文系・理系ともに低学年ほど複数サークルに参加している比率が高く、文系1年では「2サークル」31%、「3サークル」15%におよびます。

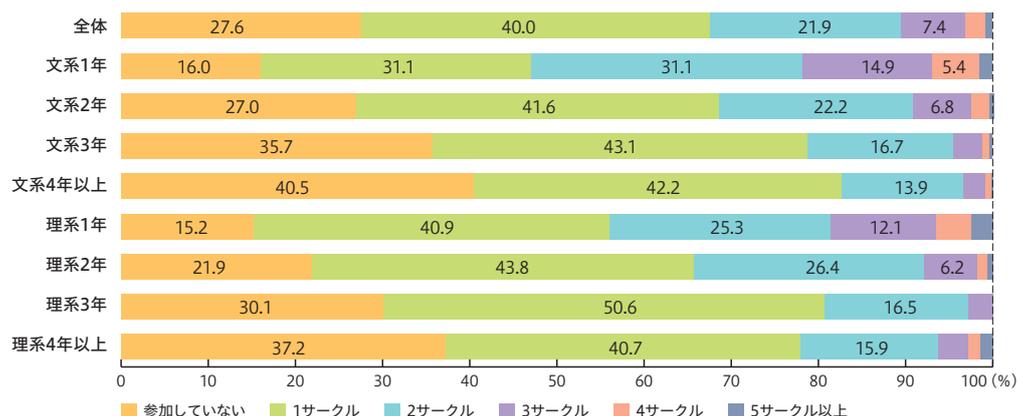


図14 文理・学年別にみた現在参加しているサークル数

参加しているサークルのジャンルは、表5のように「スポーツ系」がもっとも多く、全体では44%にのびます。ついで「音楽系」「学術系」「その他趣味系」がつづきます。「音楽系」は文系・理系・学年に一定数を占めるのにたいして、「学術系」「その他趣味系」は文系・理系とも総じて低学年での参加率が高いようです。

表5 文理・学年別にみた参加しているサークルのジャンル（複数回答）

(%)

	N	マスコミ系	ダンス系	音楽系	芸術系	スポーツ系	イベント系	学術系	ボランティア系	国際交流	その他趣味系	学生稲門会など	その他
全体	2706	7.2	9.5	16.6	6.4	44.2	9.0	14.8	7.4	6.4	12.6	2.1	5.1
文系1年	675	10.5	11.3	18.1	5.8	48.4	8.9	18.7	7.3	7.3	13.6	1.5	6.4
文系2年	555	9.0	10.8	15.0	7.4	38.4	9.5	16.2	9.4	6.7	11.0	3.1	5.4
文系3年	481	7.5	9.8	19.1	8.3	38.9	7.5	13.1	7.5	7.9	11.4	1.7	4.0
文系4年以上	391	7.4	9.2	17.4	6.1	35.3	10.0	14.3	7.9	6.4	8.4	1.5	5.6
理系1年	171	1.8	8.2	11.7	3.5	59.6	8.2	14.6	4.1	5.3	22.2	2.9	5.3
理系2年	158	1.9	8.9	12.7	3.2	55.1	12.0	13.3	4.4	1.9	16.5	1.3	3.2
理系3年	146	1.4	3.4	18.5	4.8	48.6	9.6	7.5	6.8	2.1	14.4	2.1	2.7
理系4年以上	129	1.6	4.7	12.4	7.8	55.8	7.0	6.2	5.4	6.2	10.9	4.7	3.9

※無回答76人を除く。

サークル活動への週当たりの参加日数は、全体では「週に0日・1日」28%、「2日」32%と、総じて参加日数は少ないようです（図15）。文系よりも理系で「2日以内」の比率が高い傾向があります。ちなみに、サークル活動での1カ月の費用を参加サークル数、参加日数別にみると、全体では「0円」8%、「1万円未満」55%となっています（図省略）。サークル数別では「3サークル以上」は「1万円以上」の比率が高い傾向があります。サークル数よりも参加日数との関係が強いようです。「4日以上」参加している場合には、「1万円以上2万円未満」27%、「2万円以上5万円未満」20%、「5万円以上」4%と、必然的に活動費はかさむことがわかります。

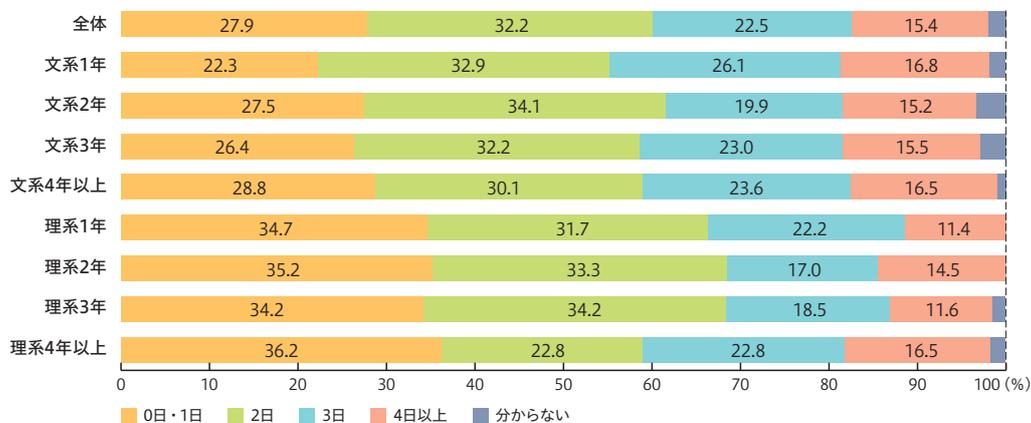


図15 文理・学年別にみたサークル活動への週当たり参加日数

サークルに参加している人に、そのメリットをたずねたところ、図16のように、全体では、「交友関係が広がる」を84%の人があげており、ついで「活動が楽しい」、「学生時代の思い出を作れる」、「好きなことに打ち込める」を6割以上の人があげています。この4点がサークル活動の主なメリットになっています。

これを活動状況との関連でみると、参加サークル数が多い場合に、「コミュニケーション能力が高まる」や「社会的経験が積める」をメリットと考えているようです。さらに、参加日数別では、より顕著に日数が多い人ほど多くの点をメリットとしています。具体的には、「コミュニケーション能力が高まる」「社会的経験が積める」「就職に有利」の比率が高くなっています。

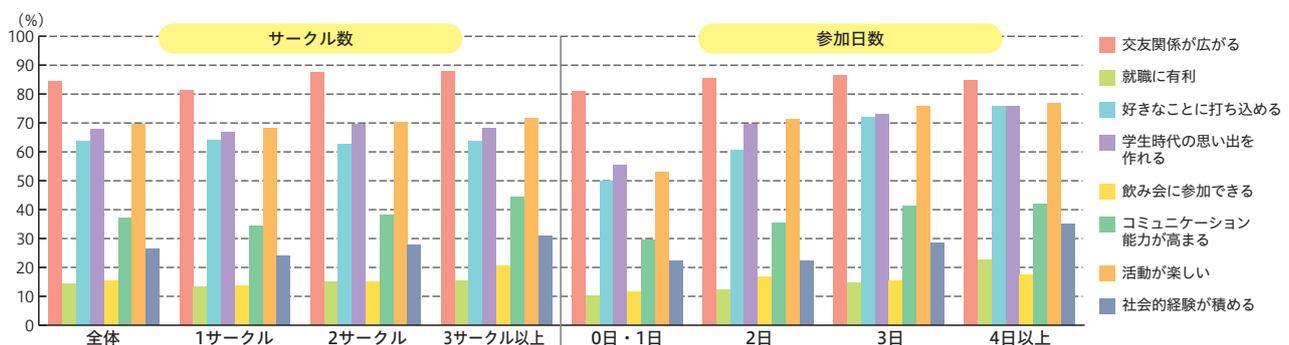


図16 活動状況別にみたサークル活動のメリット（複数回答）

最後に、サークルをすでに辞めた人にその理由をたずねました。表6のように、文理・学年別にその理由は異なっています。全体では「サークルのあり方に疑問を持った」を40%の人があげています。ついで「金銭的負担が大きいため」「人間関係」「学業と両立しない」となっています。文系では、「サークルのあり方に疑問を持った」がもっとも多い点は共通していますが、1年では「学業と両立しない」が3割を超え、「資格試験勉強・就職活動のため」は高学年ほど高くなっています。他方で、理系では、いずれの学年も「学業と両立しない」を理由とする人が4割を超えて、「サークルのあり方に疑問を持った」を上回っています。

表6 文理・学年別にみたサークルを辞めた理由（複数回答）

	N	サークルのあり方に疑問を持った	人間関係	上下関係	学業と両立しない	資格試験勉強・就職活動のため	アルバイトのため	留学のため	金銭的負担が大きいため	学生生活に不必要なため	その他
全体	479	40.1	27.3	9.2	26.1	11.7	16.5	9.2	27.8	17.1	16.1
文系1年	35	42.9	28.6	17.1	31.4	8.6	11.4	11.4	22.9	14.3	14.3
文系2年	111	48.6	26.1	14.4	16.2	8.1	22.5	10.8	29.7	28.8	11.7
文系3年	142	39.4	30.3	8.5	24.6	12.7	13.4	9.2	24.6	16.9	17.6
文系4年以上	31	38.5	24.2	4.4	14.3	23.1	17.6	15.4	28.6	7.7	22.0
理系1年	7	28.6	42.9	0.0	42.9	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3	28.6
理系2年	31	29.0	19.4	6.5	41.9	9.7	25.8	0.0	35.5	16.1	19.4
理系3年	36	36.1	36.1	5.6	55.6	5.6	13.9	2.8	30.6	11.1	5.6
理系4年以上	26	30.8	19.2	7.7	46.2	0.0	3.8	0.0	30.8	15.4	15.4

※理系はNが小さいため参考値にとどめる。